

## 「国際理解と平和Ⅰ」 戦争の記憶から平和を考える

嘉 賀 正 泰・川 田 基 生  
川 合 勇 治・原 順 子  
佐 光 美 穂

【抄録】 中学3年では広島県広島市・大久野島への研究旅行でのFWを中心に、国際理解と平和についての総合学習を行った。年間を通じてグループ学習を行い、年度末にはその成果を研究集録にまとめ、発表会を行った。

【キーワード】 平和 被爆者 毒ガス FW リボン作り 戦争体験 グループ学習

### I. 学年テーマと目標

- 1 身近な戦争体験に触れ、戦争の惨禍について理解する。
- 2 被爆者の心や毒ガス製造に携わった方の心に触れ、戦争という人間の犯した過ちをきちんと理解し、平和を求める心情を養う。
- 3 現代社会における戦争の脅威と異文化に対する理解を深め、戦後の日本が歩んできた道を辿ることで、平和を守ろうとする心情を高める。
- 4 講演を聴き戦争が残した多くの負の遺産について知り、なぜ戦争を繰り返しては行けないのかという事を理解させる。

### II. 学習方法と指導体制

- 1 春休みを利用して、スクラップブック作成や戦争体験者からの証言を聞くことで戦争を間接経験させる。
- 2 広島研究旅行において被爆体験者の方のお話を聞くなどのFW（フィールド・ワーク）を実施させる。
- 3 グループ学習の中から集団における協調性を学ぶ。

### III. 事前・事後意識調査

#### 1 目的

このような平和学習を通して、生徒の平和に対する意識が上がるのか、またそもそも生徒がもとより持っている平和に対する意識がどれほどであるのかということ进行调查するため。

#### 2 考察

事前に全体に向け意識調査を行った結果、環境によりその反応は様々であった。「身近に国際交流出来る環境」においては「国際理解や平和」について関心が高い。「異文化を理解することの重要性」はど

のような環境に育っていようと高いレベルで理解している。「戦争」というものが現実とかけ離れてしまっていて、現在の生活での「平和」という意味と結びついてないことが分かった。証言者の方々へのインタビューや講話などでの成果が期待されたが事後調査では大幅な違いは認められなかった。

### IV. 学習の経過

#### 1 前期

	日時	活動内容
第1回	4月14日	オリエンテーション、タイ人のお客さんによる講和（平和関係）
第2回	4月15日	春休みにスクラップブックに集めた記事の整理・まとめ スクラップブックについて発表（授業参観）
第3回	4月28日	発表：「身近な人の戦争体験を聞く」各クラスで実施
第4回	5月19日	5限：杉原千畝についての学習（ビデオを含む） 6限：平和学習グループで「戦争の記憶」に関するテーマを設定
第5回	6月2日	平和学習グループ研究発表【プレ研究】
第6回	6月16日	研究旅行グループ結成、研究テーマ設定、フィールドワーク（FW）の選定
第7回	6月31日	研究旅行グループでFW先の選定、アポ取り及び調査、事前学習
第8回	9月8日	研究旅行のグループでFW先へアポ取り及び調査、事前学習

2 後期

第1回	10月13日	F W依頼状書き、質問事項の確認、行程表作成
第2回	10月27日	事前学習の発表 2クラス合同で班研究テーマについて発表・行程の説明
第3回	11月9 -11日	中3広島修学旅行
第4回	11月24日	資料整理 研究集録の原稿作り
第5回	1月12日	広島研究について 各グループ発表準備、B紙などに書く。研究集録印刷完成
第6回	1月26日	広島研究について 各グループの発表 研究集録を資料として使う
第7回	2月9日	「広島から平和を科学する」 ディスカッション
第8回	3月9日	一年間の研究のまとめ アンケート



リボン献呈

(3)平和のリボン製作

目的：被爆体験を話していただく『平和のリボンの会』の活動に参画し、製作を通して平和を考える。

日数：10月から11月の3週間。総合人間科の授業時間で2時間、あとは授業後に被服室にて製作した。

例. 各班がリボンに込めた思い (リボン作品例)

このリボンがなぜ虹色かという、私達の考える和のシンボルが“虹”だからです。だから、このリボンには、私達の平和への強い思いが込められています。とてもよいリボンができたと思います。



V. 広島研究旅行

1 基本班と研究班によるグループ学習

(1)学習形態

広島の研究旅行はグループ学習である。グループは2つあり、基本班、研究班である。基本班では班長、副班長、研究係、記録係、レク係に担当を決め、旅行全般の役割を生徒一人一人が担う。研究班は広島で深めたい研究テーマが近い生徒の集まりで、同じところにフィールドワーク行く。これから紹介する活動は基本班・研究係が中心となって行ったものである。



(2)平和セレモニー

日時：05年11月9日(水)

旅行1日目13:40 ~ 13:55

場所：平和公園原爆ドーム前

(4)大久野島での体験学習

1 目的

戦争被害者としての証言をここまで多く伺ってきた。そこで戦争の二面性を感じてもらうために、日本の犯した罪についても考えてもらう機会を作った。

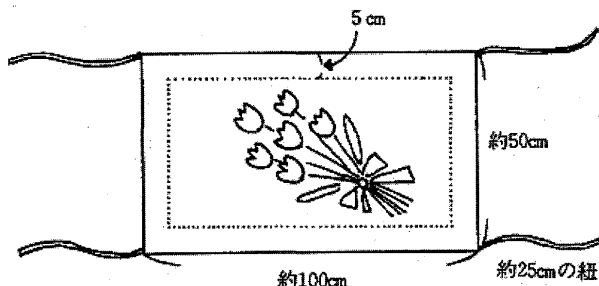
2 方法

村上元毒ガス資料館館長をお招きして、当時の様子について生々しいお話を交えながら講話をして頂いた。また、大久野島にある、毒ガス資料館にてスライドショーなどを通して勉強会を実施した。

反核、環境保護、人類の平等……力を力で制するのではなく、永遠の平和のメッセージを愛と思いやりをこめたりボンでつなぎたいと思います。

あなたご自身、作ってみてくださいませんか。

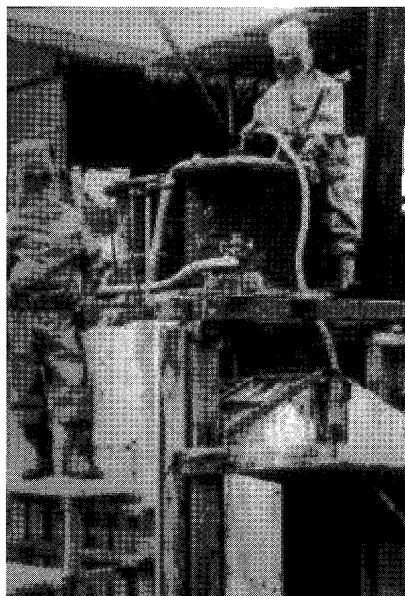
### リボンの作り方



- ① 出来上がり寸法 50cm × 100cm
- ② 布の色は何色でもよいが丈夫なものがよい。  
二重にして5cm入った周囲を四方にステッチし、四すみに、結ぶための紐を付ける。
- ③ 刺しゅう、アップリケ、蠟染め、キルティング、ニット、墨絵、詩、俳句、油絵、など、どんな方法を用いてもよい。



(参考) 本校99年度紀要より



毒ガス工場、当時のようす

## VI. 研究発表会

### 1 目的

グループ活動を通して、集団行動の大切さを知ることや、協力することの大切さを知るため。また調べた事実や、自ら考えた事を、きちんと他人に伝える難しさや、大切さを感じ取ってもらうため。

### 2 方法

発表を行うに先立って、研究集録の作成を行った。そうすることによって、研究収録を発表資料にすることが出来て、収録を制作する意義がより増すと考えたからである。また発表に際しては、視聴者にも評価を義務づけることでよりわかりやすい発表を行えるように指導できたと思う。



発表のようす

## VII. まとめ

総合人間科をとおして何を学ばせたいのかということを確認することは非常に大切なことである。そのためには教員間での共通理解が不可欠で、担当者一人だけが頭に設計図を持っているだけでは、よりよい学習活動は行えない。そのために積極的な話し合いを持ち、常に情報交換することの重要性を今回、再確認した。

また生徒にとって研究旅行は大切な思い出であり、単に研究で終わってしまったら、学校教育の観点からみて不十分である。また研究という事自体が生徒にとって魅力のないものになってしまうのは、元も子もない。

今回は生徒になるべく自分の考える研究をしてもらうため、グループ分けの際には細心の注意を払い、好きな子同士などの易きに流れぬよう配慮した。またブレ研究などの練習も行い、十分に指導した上で、最終的には生徒の自主性を尊重する指導を行った結果、非常に高い満足度を教員も生徒も得られたように思う。

今後の課題としては、毎年同じようなテーマでマンネリ化しないように常に新しいアイデアをどのように提供できるかということである。

中学3年生 「国際理解と平和Ⅰ」

2006年1月26日第6限

中学3年生 総合人間科 国際理解と平和 一戦争の記憶から平和を考える一

3年 組 番 ( )

グループ研究報告発表会  
中3B 評価用紙

各項目0～2点 合計10点

	伝達 声の大きさ・わかりやすさ	発表の構成 組み立て・時間配分	工夫 資料発表方法	内容 情報の正確・出典感 感想・意見の発表・今後の研究課題	印象 班の協力・取り組み姿勢	合計点 10点満点	コメント
1班							
2班							
3班							
4班							
5班							

2006年1月26日第6限

中学3年生 総合人間科 国際理解と平和 一戦争の記憶から平和を考える一

3年 組 番 ( )

グループ研究報告発表会  
中3A 評価用紙

各項目0～2点 合計10点

	伝達 声の大きさ・わかりやすさ	発表の構成 組み立て・時間配分	工夫 資料・発表方法	内容 情報の正確・出典・感想・意見の発表・今後の研究課題	印象 班の協力・取り組み姿勢	合計点 10点満点	コメント
1班							
2班							
3班							
4班							
5班1							
5班2							